

環境とともに

美しい地球を美しいままに、子どもたちに残してあげたい。

ワタミグループでは、2008年10月に改めて「ワタミ環境宣言2008」を策定し、国内グループ全事業にその対象を拡大するとともに、環境保全の中・長期計画を発表しました。

地球や自然の環境保全活動に取り組むことは当グループの責務と考え、より一層の貢献を目指します。

主な取り組み		2008年度目標	2008年度結果	評価	2009年度目標
環境とともに	環境マネジメントシステム	ISO14001の認証を取得	認証を取得した601サイトの維持、介護施設3ホームの新規認証を取得	601サイトで認証を維持、介護施設3ホームの新規認証を取得	○ 認証を取得した601サイトの維持および新規認証を取得(※1)
		環境法規制の順守	違反件数0件	違反件数0件	○ 違反件数0件
		環境監査点数	-	-	- 80点以上
	廃棄物3Rへの取り組み	全廃棄物リサイクル率(※2)	35%以上	33%	× 35%以上
		食品廃棄物リサイクル率(※2)	28%以上	22%	× 28%以上
		廃棄物低減の取り組み(※3)	前年比100%未満(1店舗あたり20.3t)	20.5t	× 前年対比100%未満
	地球温暖化防止に向けて	CO ₂ 排出量の削減(※3)	前年比100%未満(1店舗あたり112t-CO ₂) (※4)	1店舗あたり110t-CO ₂	○ 2007年度比6%削減(1店舗あたり)
		電気使用量の削減(※3)	前年比1%削減(1店舗あたり23.9万kWh)	1店舗あたり20.0万kWh	○ -
		水使用量の削減(※3)	前年比100%未満(1店舗あたり4.24千m ³)	1店舗あたり4.22千m ³	○ -
		NPO法人の支援(「森づくり」を行なうNPO法人の支援)	ボランティア受け入れ300名	ボランティア受け入れ492名	○ ボランティア受け入れ360名
環境コミュニケーション	教育訓練の実施	年3回以上実施	5月、8月、10月に実施	○ 年3回以上実施	
	社外とのコミュニケーション活動を実施	環境セミナー・イベントへの積極的出席(講演)	環境セミナー・イベントなど4件に参加(出展・講演)	○ 環境セミナー・イベントへ積極的に参加(出展・講演)	

○達成、×未達成、-該当なし (※1)新規認証の取得は、介護施設39ホーム、ワタミファーム6農場、ワタミタクシヨク本社・7支社・4工場・49営業所、ワタミエコロジー営業本部・経営管理部 (※2)対象は外食597店舗およびワタミ手づくり厨房3センター (※3)対象は外食597店舗 (※4)2008年度からは地域特性を考慮したCO₂係数0.421を使用しています。

ワタミ環境宣言2008(環境保全の中・長期計画)を発表

1999年の環境宣言以来、ワタミグループは事業活動で発生する環境負荷を可能な限り低減し、地球環境へ貢献する環境活動に取り組んできました。

グループとして、外食をはじめ介護・中食・MD・農業・環境/メンテナンスなど様々な「ありがとう」を集めるようになった今、各事業の特性に合わせて環境負荷低減に対する中・長期計画を策定し、グループ連結で活動を強化する宣言として「ワタミ環境宣言2008」を発表しました。

今後も、地球温暖化と廃棄物の発生抑制の重要性を認識し、この宣言にもとづいた「具体的な目標(ゴール)」と、「一人ひとりが行う具体的な行動」を掲げ、その実現に向けた活動を加速していきます。



グループ環境推進体制を強化

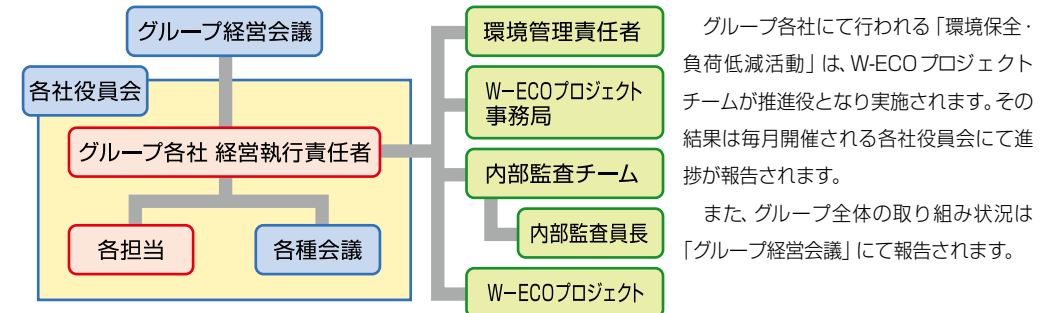
ワタミグループでは環境方針のもと、グループ全体で環境保全活動に取り組んでいます。本社各部門およびグループ各社の推進者で構成される「W-ECOプロジェクト」を中心に環境管理体制を確立し、目的・目標の達成を目指しています。

また、定期的に内部監査を実施して、本社および外食店舗、介護施設、ワ

タミ手づくり厨房における環境活動の継続的改善に努めています。

特に店舗監査は店舗サービスの品質確認と是正を目的とした業務監査と同じタイミングで実施しています。監査員は主に環境活動の進捗を含めた従業員への浸透度、法規制の順守状況などを確認し、是正処置要求を含めた結果報告をしています。

■環境管理体制



グループ各社にて行われる「環境保全・負荷低減活動」は、W-ECOプロジェクトチームが推進役となり実施されます。その結果は毎月開催される各社役員会にて進捗が報告されます。

また、グループ全体の取り組み状況は「グループ経営会議」にて報告されます。

W-ECOプロジェクトチームの声

ワタミ株式会社 人材開発グループ環境マネジメントチーム 川原 美和子

環境



地球環境問題は、仕事に関する場面だけでなく、家庭や自分のライフスタイルの中でも直面する大きな問題です。仕事の範囲の枠を超え、日常生活の中でも環境に配慮した行動へシフトしなければ、地球環境は悪化する一方。

大事なのは一人ひとりにとって、環境に配慮した生活が「あたりまえ」になることだと考えます。例えば、ゴミを捨てる際に分別ができていない状況や、照明・空調などの節電ができていない状況を目にして、「おかしい」と感じる抵抗感を持つことが大事だと思います。さらに、それらを地球にとって「あるべき姿」に戻そうとする行動力こそが、明日の現実を変えていくことにつながると考えます。

ワタミグループの社員、パート・アルバイト約2万人一人ひとりが、家庭や地域で少しずつ行動を変え、地球全体の環境問題の改善へと導く大きな「力」へとつなげていける活動を推進していきます。

ワタミフードサービス株式会社 首都圏カンパニー 2部 分部 雅

外食



ワタミフードサービスでは、外食部門の中長期計画立案に伴い、本部8名・営業部5名の環境活動推進チームを新設しました。また、監査など店舗運営のスタンダードを確認する制度にも、環境面におけるチェック項目を増やすなど、仕組みづくりに取り組みました。しかしながら、私が一番大切にしていることは「ゴミの分別」作業など、小さな部分にこだわりを持つことを通じて、従業員全員が「環境」について考え、意識を高く持つことだと考えています。

今後も、一人ひとりの従業員としっかりと向き合うことで、一緒に「環境」について考えていきたいと思っています。

ワタミの介護株式会社 運営管理部 福山 香緒里

介護



2008年度は、「環境」への取り組みが、各ホーム・一人ひとりの意識の中で大きく根付いた年でした。各ホームへ何うと、電力削減や分別など全ホームでの取り組み以外にも、各ホームでの自発的な取り組みがたくさん生まれました。例えばアクティビティや納涼祭などのイベントの中に「環境への取り組み」を入れているホームや、従業員のマイカップ活動始めるホームなどがあります。最も感じたことは、環境活動の重要性を強く認識し、その上で「楽しみ」ながらしっかりと「広げている」ことです。今後も、各ホーム一つひとつの活動に注目していきたいと思っています。

ワタミ手づくりマーチャンダイジング株式会社 手づくり厨房越谷センター 飯嶋 博之

MD



これまでワタミ手づくり厨房では、ゴミの分別や節電・節水などすぐに出来ることをコツコツと地道に活動してきました。その活動をより推進するため、月に一度、4センターから環境推進者・センター長などが参加し、各センターの取り組み状況を共有、水平展開するための報告会を開催しています。

また、報告会を受けて、実際に現場で改善活動を行う機会を定期的に設けています。

2009年度からは、役員会でも環境に関する活動状況を確認する機会を設け、全体的な意識向上に努めています。

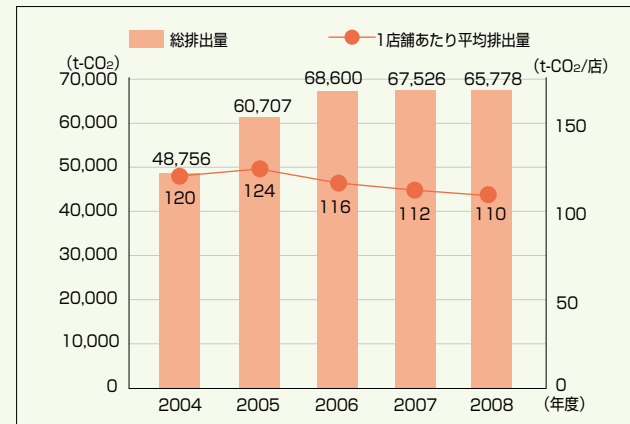
ワタミグループは、「CO₂削減」と「3Rの推進」に取り組んでいます。

「CO₂削減」と「3Rの推進」を課題に

ワタミグループにおける環境負荷の特徴は、事業全体の大部分を占める外食店舗において、(1) 照明や調理器具の使用および食材の発送に伴うエネルギー消費量と、(2) 多品種で小ロットな廃棄物の発生が多いことです。

このことから、環境面における最も大きな課題として、地球温暖化対策(エネルギー対策)と、3Rの推進(リユース・リデュース・リサイクル)に継続的に取り組むことが重要であると考えています。

外食店舗 CO₂排出量の推移

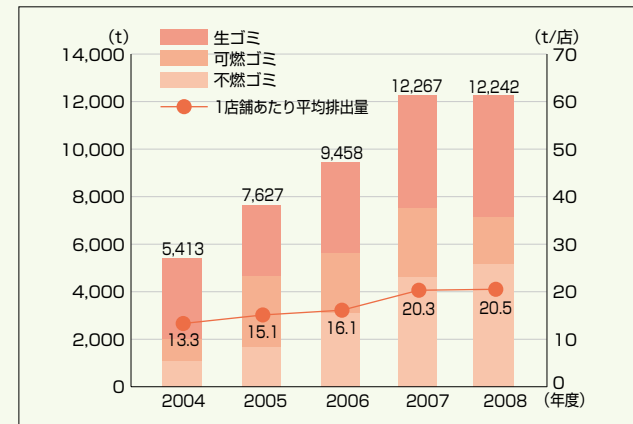


2008年度のエネルギー使用によるCO₂排出量は、全外食店舗で65,778t-CO₂となり、前年比較で97.4%となりました。また、1店舗あたりのCO₂排出量は、前年比較で▲1.7t-CO₂という改善をしました。これは、W-ECOプロジェクトチームメンバーが、継続的に1つひとつの店舗の活動に着目し、評価・改善を続けた結果だと考えています。

2008年度からは、外食店舗におけるCO₂削減や、3Rの推進(廃棄物の削減)などの取り組みに加えて、介護施設やワタミ手づくり厨房などグループ各社での取り組みを明らかにすることで、より一層環境への取り組みを強化しています。

また、そのノウハウを外部に公開することで、業界全体の活動を広く浸透させていくことは、企業として当然の責務であると考えています。

外食店舗 廃棄物排出量の推移



全外食店舗における食品リサイクル率は22%、全廃棄物のリサイクル率は33%となり、廃棄物排出量は、全店舗合計で12,242t、1店舗換算では20.5t(前年比較101%)となりました。1店舗あたりの廃棄物排出量が増えたのは、「外食店舗におけるダンボール材の排出量が増加したこと」が主要因です。2009年度は、継続して生ゴミリサイクルシステムの新たな仕組みづくりを進めるとともに、引き続き食品リサイクル率28%、全廃棄物リサイクル率35%の達成を目標に廃棄物リサイクルに取り組んでいきます。

環境会計

環境会計の集計範囲は、ワタミグループで2008年4月から2009年3月までに環境保全・管理活動のために支出した投資と費用の額です。それぞれの活動ごとにコスト項目を特定し、金額を集計しています。

ワタミグループでは環境保全コストを大きく3つに分類しました。

- ① 環境目的・目標を達成するための活動に関するコスト(目的・目標コスト)
- ② 環境法規制に対応するために必要なコスト(法規制対応コスト)
- ③ 環境マネジメントシステムの適切な運用・維持を図り、環境パフォーマンスを改善していくために必要なコスト(審査・監査コスト)

■ 2008年度環境保全コスト集計表 (単位:千円)

①目的・目標コスト				小計	②法規制対応コスト	③審査・監査コスト	合計
店舗・ホーム・センター・タクシヨク							
地球環境保全コスト				283,323	402,529	11,944	697,796
電気使用量の削減 エネルギーマネジメントシステム・省エネ冷蔵庫の導入(注1)	水使用量の削減 節水型洗浄の導入・節水型トイレの導入(注2)	排水の水質改善 グリストラップの管理清掃・浄化槽の管理(注3)	環境配慮型商品の導入 油脂酸化防止装置の導入(注4)				
78,037	17,188	72,085	4,800	105,852	2,378	2,983	283,323
本社				105,852	2,378	2,983	105,852
資源循環コスト				105,852	2,378	2,983	105,852
教育コスト				2,378	2,378	2,378	2,378
地球環境保全コスト				2,983	2,983	2,983	2,983
環境配慮型商品の導入 油脂酸化防止装置の導入(注4)				4,800	4,800	4,800	4,800
リサイクルシステムの構築 リサイクルセンター運営再資源化委託など(注5)				105,852	105,852	105,852	105,852
環境教育 従業員への環境教育の実施(注6)				2,378	2,378	2,378	2,378
環境配慮型商品の導入 グリーン資材の導入(注7)				2,983	2,983	2,983	2,983

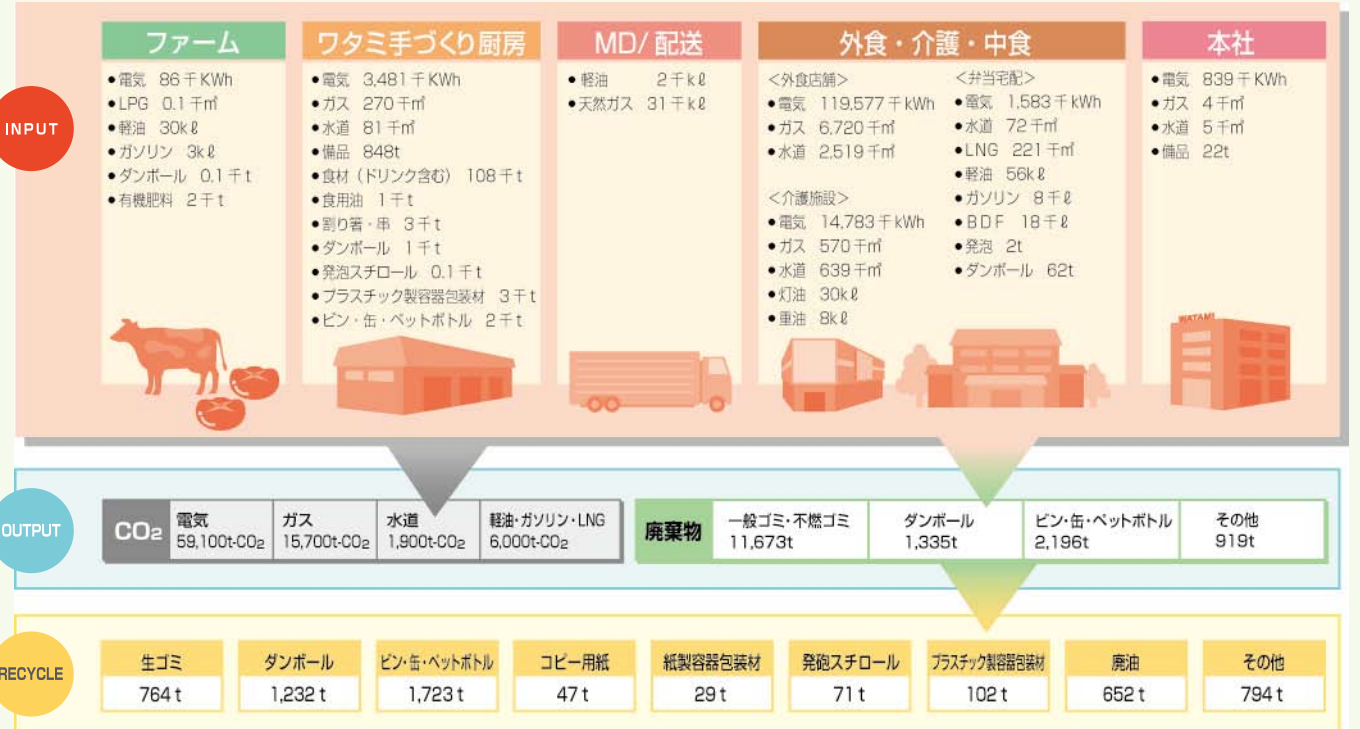
(注1) エネルギーマネジメントシステムは287店舗分、省エネ冷蔵庫は82台の導入コスト(15店舗、5ホーム) (注2) 節水型洗浄機は19台分(15店舗、4ホーム)、節水型トイレは39台分(15店舗)、節水コマ(22ホーム)、中水再利用システム(1ホーム) (注3) グリストラップの管理清掃は593店舗、38ホーム分 (注4) 油脂酸化防止装置は24台(24店舗) (注5) リサイクルセンター運営・再資源化委託費用、リサイクル品回収208店舗 および廃油回収580店舗、生ゴミリサイクル23店舗 (注6) 従業員2321人への研修(重複人数を含む) (注7) 本社リサイクルトナーなど購入 (注8) 一般廃棄物576店舗 (注9) 外部コンサルティング費用および、法規制情報サイト契約料 (注10) ISO14001認証取得601サイト対象

2008年度ワタミグループの環境影響

ワタミのマテリアルフロー図

環境負荷を削減するために、製造・輸送・販売という流れの中で消費するエネルギー量や廃棄物の排出量を測定、明らかにしています。

また、事業活動のそれぞれの段階で「明らかにされた現状数値」を分析し、施策を立案、効果的な環境負荷低減に努めています。



■ CO₂ 排出係数 (kg-CO₂/kWh) 電気…0.421 ■ CO₂ 排出係数 (kg-CO₂/㎡) 都市ガス…2.08 ■ CO₂ 排出係数 (kg-CO₂/㎡) 水…0.58

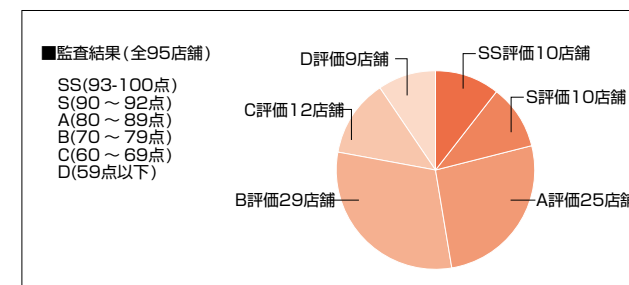
*数値は年間数値(2008年4月1日～2009年3月31日) □ワタミ手づくり厨房は、国内3センターを対象とします。 □ワタミ手づくり厨房への投入量(INPUT)に関しては、1999年度に算出した1店舗あたりの食材・備品などの仕入れ物を計量した数値に現在の店舗数に乗じて算出しています。 □外食店舗における排出量(OUTPUT)は2007年度の定期計量(年14回、延べ61店舗)数値の平均値を使用しています。 □また、老人ホームにおける排出量は2007年度に毎月定期計量した32ホームの平均単価を基準として経理支払い数値を除いて算出しています。 □ワタミファームにおける数値は6農場における数値です。 □ワタミタクシヨクについては本社のある長崎の敷地内の設備に関する数値を掲載しています。 □外食店舗における投入量(INPUT)は下記の方法により算出しています。 □電気、284の店舗のWEM導入対象店舗の平均単価を基準として経理支払い数値を除いて算出しています。 □ガス、305店舗の検針数値を基準として店舗数で集計して算出しています。 □水道、請求書から399個の平均使用量を基準として店舗数で集計して算出しています。

環境監査(2009年度からは「WE-can」*)

ワタミでは、外食店舗の環境負荷低減への取り組み強化と教育を目的として、通常の内部監査に加えて、環境監査を実施しています。環境監査では、内部監査員が店舗における廃棄物の分別基準、グリストラップや廃油に関して正しい管理が行われているかなど38項目を確認し、さらに管理状況を向上させるための教育を実施しました。2008年度は95店舗で環境監査を実施しました。

2009年度からは、環境保全の中・長期計画を達成するため、現場とのコミュニケーションを強化し、「ワタミの環境活動」の浸透、拡大に努めます。

* 「WE-can」…「W-ECO communication and new action」の略



環境法規制の順守

ワタミでは、環境に関わる取り組みは、法規制を順守し、継続的に行うことを目指しています。

2007年施行された食品リサイクル法の改正を受け、2008年度は、外食店舗における生ゴミをリサイクルする新しい「循環型生ゴミリサイクルの仕組み」をスタートさせました。今後は、この仕組みの検証を行い、拡大していく計画です。(詳しくはP50ページ)

また、廃棄物処理法に関しては、産業廃棄物のマニフェスト管理に重点をおいて取り組み、戻り伝票チェックによる適正処理の確認を徹底して行う他、廃棄物の中間および最終処分施設の立ち入り調査を継続して実施しています。2008年度は、コンプライアンス対応ができる廃棄物回収・処理業者の選定体制づくりを強化し、廃棄物処理に関する仕組みの全国ネットワークの整備を進めました。

容器包装リサイクル法に関しては、店舗の料理をお持ち帰りされるお客さま用のパッケージと袋が年間若干量発生するため、継続して自社でリサイクル対応できない部分を再商品化委託契約にて対応しています。

外食での取り組み

2008年度、外食事業では環境負荷低減として「LED照明を使用した店舗の開発」や「生ゴミリサイクルの仕組みづくり」に着手しました。
また、全社員を対象にした「環境への取り組み」に関する講義や活動の評価を隔月で実施し、その推進を図りました。

国内初となるLED照明店舗の開発によりCO₂25%削減

2009年4月、WFSでは東京都渋谷区に国内外食チェーンとしては初となるLED照明を店内とキッチンに使用した店舗の開発を行いました。2009年6月～7月の結果では、消費電力が従来店舗と比較して31%（店内照明のみの電力消費量を従来店舗と比較した場合95%）削減され、CO₂排出量が25%削減されました。

今後、新規出店する店舗では積極的にLED照明を導入し、地球温暖化対策に貢献していきたいと考えています。



廃油から石鹸へ

ワタミでは、店舗で使用している食用油を使用した後の廃油をすべてリサイクルしています。それらは、洗剤・飼料に再生され、現在、WFSが展開する店舗のトイレでは再生された手洗い用液体石鹸を使用しています。

また、その他の取り組みとして、2007年度から油の酸化を防止する機器を導入し、油の品質の向上と長寿命化を図ることで、廃棄物の発生を抑制しています。2008年度は、24店舗に導入いたしました。



節水器具の導入により19%の水使用量削減

各店舗にて水使用量を削減するために、2006年度より節水器具を導入しています。

2008年度は、この節水器具の効果検証を行い、1店舗あたり平均▲19%の水使用量の削減が立証され、積極的に器具の導入を進めました。
この節水器具は、2009年6月の時点において109店舗に導入しており、今後は新店への拡大を計画しています。

新たなゼロエミッションの仕組みづくりに向けた生ゴミリサイクル

新たなゼロエミッションの仕組みづくりに向けて、外食店舗から排出される「生ゴミ」のリサイクルを開始しました。2008年度は23店舗でテストを開始、2009年8月時点では48店舗で実施しています。

新たなリサイクルの仕組みでは、ワタミエコロジーが中心となり外食店舗とリサイクル業者様のネットワークを構築したことで、環境負荷が小さいものとなりました。

また、より一層の活動の推進を図るため、予測される生ゴミの発生量を基にリサイクル量を集計、リサイクル達成率を毎週算出し、「見える化」しています。これにより、生ゴミの分別徹底度が上がり、2009年7月～8月で90%以上の分別達成率を実現し、この活動を58店舗へ拡大する計画です。

リユースの推進

ワタミでは、お取引業者様の協力のもと日本酒のビン(2種類)を、リユースする仕組みを構築しました。この仕組みにより、廃棄物の発生を抑制し、CO₂排出量を削減することで環境負荷の低減に努めています。

2009年度は7月から5店舗でスタートし、年度末までには関東圏350店舗を対象に日本酒ビンのリユースの仕組みを構築していきます。



「エネルギー管理」により2,290t-CO₂を削減

2004年8月より店舗の使用電力を一元管理するモニター機器（いつでもどのくらい電気が使われているかを計測する電力監視システム）を2009年7月現在で284店舗に導入しています。

電力のムダに対して各店舗でタイムリーな対策を打つことにより、2008年度は導入店舗全店で導入前使用量との比較で9.3%、電気料金で1億1千万円、CO₂排出量で2,290t-CO₂の削減をすることが出来ました（2008年4月～2009年3月の1年間実績）。

このCO₂排出量は、森林が1年間に光合成を行う際のCO₂吸収量に換算して158haに相当します。

※森林1haあたりのCO₂吸収量は14.5t-CO₂/ha(年間)にて換算

環境教育の強化

WFSでは、毎月実施される研修会にて行う環境教育を強化しました。研修では、環境法規制に関する解説や、現在の取り組み状況に対する評価・フィードバックを行いました。

また、店長が、アルバイトさんに行う「クイズ形式のテスト」なども導入し、その理解促進に努めました。



介護事業での取り組み

ワタミの介護では、ご入居者様にとって快適で安心できるホームづくりを追求しています。

介護サービスの過程で発生する環境負荷については、ご入居者様の生活スタイルやその個性、施設特性に合わせて様々な低減活動に取り組んでいます。

また、新ホーム建設時や改装時には、快適な機能やデザインを追求しながらも環境配慮型機器の導入など「環境に配慮した設計」を施しています。

「ISO14001」全ホーム認証取得への取り組み

ワタミの介護では、2007年にレストヴィラ座間谷戸山公園にてISO14001の認証を取得しました。さらに2008年にはレストヴィラ川口安行・堀之内・葉山の3ホームにも認証を拡大し、これらの運用実績をもとに水平展開し、2009年の拡大審査では全ホーム（2009年7月オープンのレストヴィラ神戸伊川谷まで）およびワタミ介護ステーション岸和田、デイサービスにのり里などでの認証取得を目指しています。環境負荷低減活動の目的・目標の達成を目指し、ホームごとに従業員が一人となって環境負荷を減らすなど、ISO14001のPDCAの仕組みを活用して推進しています。

また、環境活動を進めるにあたり、内部監査を通じて各ホーム間でのコミュニケーションが活発になるなどの情報共有効果が現れています。

新しいエネルギーの利用～オール電化システムの拡大～

2007年にオープンしたレストヴィラ鎌倉常盤では、オール電化システムを導入し、厨房、冷暖房機器、給湯システムなどにおける燃焼ガスを低減する仕組みをとっています。

さらに、2009年にオープンしたレストヴィラ北鎌倉でもオール電化システムを導入し、蓄熱システムやヒートポンプ方式によって消費エネルギーの低減を目指しています。



ご入居者様やスタッフとの環境コミュニケーション

ご入居者様との環境イベント実施

レストヴィラ鎌倉常盤では、8月の納涼祭で「環境」をテーマにしたイベントに取り組みました。会場では、「ゴミ分別ゲーム」と題したゲームや、利用できなかったユニフォームをリサイクルした草履、アルミ缶を利用したおみこしなど、リユースやリサイクルを体感できるイベントを実施しました。

また、ワタミの森づくり活動やグループの環境活動などを紹介し、ご入居者様などとのふれあいの中で環境活動について考える機会となりました。イベントには、社員をはじめ、ご入居者様やご家族様など約300名が参加しました。



遮熱性舗装材のベランダで裸足の生活を

レストヴィラ弥生台では、ゴムチップにホタテ貝殻の粉砕を混ぜたゴム舗装材を採用し、テラスの床材に利用しています。全てリサイクル素材でありながら、優れた耐久性を持ち、透水性も高く、雨雪にも滑りにくい特徴を持っています。

さらに、コンクリート材の温度が炎天下で高温になるのを30度程度に抑えるという遮熱性があり、裸足で歩いていただくことができます。歩行音のしない、足腰にソフトな歩行感のある素材で、安全で快適なホームとなっています。



ホームに緑を～屋上緑化・壁面緑化～

レストヴィラ弥生台では、自動給水型の屋根緑化と壁面緑化を導入し、身近に自然に触れられる空間づくりに取り組んでいます。

入り口にはアーチ型メッシュの看板を設置し、緑あふれる憩いの場を提供しています。



遮光レースカーテンで遮熱

レストヴィラ久里浜ではホームの一部に遮光レースカーテンを導入し、外部気温の上昇や太陽光による熱を遮断することで空調使用時のエネルギー効率化の取り組みを実施しています。

さらに、共有部分だけでなく居室や共有スペースにも遮光レースカーテンを導入し、直射日光だけでなく熱も遮断することで快適なホームづくりを目指しています。



ワタミの森の間伐材を使った「ふれあい広場」づくり

レストヴィラ高座渋谷では、敷地内にある散歩したりコミュニケーションをとるための広場「ふれあい広場」に、2009年度の新入社員がワタミの森の間伐材をつかって「柵」をつくりました。それまで土砂が流入し、草木が生い茂っていたところに柵を作ることで、農園や植栽を施すことができるようになりました。

また、この取り組みはワタミの介護の「新卒成果発表会」で発表され、多くの社員に環境について考える「きっかけ」づくりとなりました。



MD事業での取り組み

WTMDでは、食の安全・安心を提供する中で、様々な環境負荷低減に取り組んでいます。従業員一人ひとりの環境への意識向上と作業工程の効率化、機器の安全管理の仕組みが環境負荷の低減に繋がっています。また、物流工程でも大気汚染やCO₂を削減するために、輸送に関わる様々な改善に取り組んでいます。

「床のドライ化」による水削減への取り組み

ワタミ手づくり厨房では、日々、環境負荷低減に対する活動を行っています。その取り組みのひとつが「床のドライ化」です。

「床のドライ化」は、①水の使用量削減、②作業環境・能率の向上、③衛生面・安全面の向上、④建物・設備管理の向上を目標とした活動で、2008年12月から相模原センターにて、他のセンターへ水平展開するためのモデルとして、取り組みを開始しています。

活動では、解凍槽や水切り台などを改善し、床を常に乾いた状態に保てるようにしたことで、水の使用量が削減されました。

その他にも、「足場が滑りにくくなったことによる安全面の向上」や、「長靴から短靴に変更したことによる作業効率の向上」、「機器の寿命の長期化」などの効果に繋がっています。

INTERVIEW



床のドライ化推進担当者の声

ワタミ手づくり厨房 衛生センター 藤田 聡
相模原センター「非加熱Ⅱライン」では、モデルとして「床のドライ化」に取り組まれました。きっかけはISO14001の内部監査でより活動を推進するためのプロジェクトとしてスタートしました。現在では、1カ月あたりの清掃の水使用量は95% (66,420ℓ → 3,240ℓ) 削減され、また、キッチンペーパーの使用量も5,850枚の削減となりました。この事例をもとに各センターに拡げていき、環境負荷の低減に少しでも役に立ちたいと思っています。

配送におけるCO₂削減への取り組み

年2回の物流会議の場では、ワタミの環境に対する取り組みを紹介し、お取引業者様へのご協力を呼びかけています。物流工程の環境負荷低減として、主に大気汚染防止とCO₂削減に取り組んでおり、配送業務の中で、お取引業者様も含めたトータルの配送距離削減の取り組みを推進することが大切と考えています。

その取り組みの一つが関東・関西ごとに「集約倉庫」を設け、お取引業者様との協力体制をとった「集約配送ルート」の構築です。北海道地区、九州地区においては荷物の集配業務を行うサテライトセンターを設けることにより、配送距離の短縮に努めています。今後も継続して、新規出店に合わせた店舗への配送ルートの組み替えおよび帰りの有効活用による配送の効率化を推進します。

また、店舗への納品時には、全車エンジンを停止することの徹底や、ガソリン車よりCO₂の排出量が2～3割削減できる「天然ガス車」の導入を始めています。

■2007年度と2008年度 走行データ

	2007年度	2008年度
総走行距離 (千km)	10,529	10,917
走行距離 / 軽油分 (千km)	10,479	10,755
走行距離 / 天然ガス分 (千km)	50	162
軽油使用燃料 (千km)	2,166	2,078
天然ガス使用量 (千ℓ)	10	30
CO ₂ 換算 (t-CO ₂ /千ℓ)	5,615	5,504

※CO₂原単位 ○軽油…2.62 ○天然ガス…0.00196

食材の端材のリサイクル

ワタミ手づくり厨房では、食品加工の過程で発生する食材の端材は、リサイクルとして堆肥化しています。排出する際に塩分濃度によって分類し、リサイクル委託業者様がリサイクルしやすいような協力の仕組みをとっています。



塩分濃度によって分類された廃棄食材

日高センターでの取り組み

日高センターでは、廊下や洗面所の電気をセンサー式にすることで、自動的に電源のオン・オフが行われる仕組みを採用しています。従業員が使用していない時は、自動的に電気が消え、無駄な電気の使用削減につながっています。

また、従業員の環境負荷低減に対する意識を向上させることを目的に、「マイカップ」の利用を呼びかけています。ハード・ソフトの両面から環境に対する活動を積極的に進めています。



従業員のマイカップ

ワタミ手づくり厨房の環境ビデオ作成

ワタミ手づくり厨房では、全従業員に「ワタミ手づくり厨房」の環境に対する取り組みを知ってもらうことを目的にしたビデオを作成しています。このビデオには、ワタミグループが環境に取り組む理由や、手づくり厨房内でのゴミの12分別、電気の使い方(クールビズ・ウォームビズ)などの具体的な取り組みが盛り込まれています。

また、月に2回、環境負荷を抑えるための改善活動を行う機会を設け、ISO14001の取り組みや現場の作業に合わせた改善活動を継続的に行っています。



月に2回の環境改善活動の様子

排水の浄化

ワタミ手づくり厨房越谷・相模原センターでは、浄化装置を設置しています。関西・日高センターでは、固形有機物分解システムを導入し、排水処理を行っています。このシステムでは、汚泥は発生せず、薬品などの投入も不要になっています。

一定量以下の水量の場合は、再度処理層に戻すことにより水量を増やして、処理を安定させています。今後も、水質データを定期的にチェックし、管理に努めることで、法令順守の仕組みを徹底しています。



ワタミ手づくり厨房相模原センター 浄化装置(浄化後)

TOPICS ISO14001のグループ水平展開

W-ECOビジョン2013の目標達成のため、ワタミの環境活動はあらゆる方面の事業活動の中で推進される必要があります。

その推進の方法として、ISO14001の規格である環境マネジメントシステムの仕組みを活用することで環境活動の継続的改善を図ることとしました。

現在の登録範囲はワタミ(株)、WFS、T.G.I.F.J、ワタミの介護本部、ワタミ手づくりマーチャンダイジング、ワタミエコロジー環境部、ワタミ手づくり厨房3センターです。

2009年度は、ワタミファーム、ワタミタクシヨク、ワタミエコロジー定期管理部に対しISO14001の認証取得を目指しています。

農業での取り組み

ワタミファームでは、2002年度より環境にやさしい有機農業を推進しています。

さらにこの活動を通じた環境負荷低減を強化するため、2009年度よりISO14001の認証取得への取り組みを開始しました。2009年度は、通い箱の使用によるダンボールの使用量の削減などを目標に掲げています。また、環境教育の一環として積極的に農場体験の受け入れや、外部セミナーの講演などを行い、有機農業の普及啓発に取り組んでいます。

通い箱を使った配送でダンボールを約11,200kg削減

ワタミファームでは農場からワタミ手づくり厨房各センターへの野菜の配送の際、梱包資材の代わりに通い箱(折りたたみコンテナ)を一部使用しています。通い箱は何度も繰り返し使用でき、ダンボール材の使用削減や排出量の削減につながっています。この取り組みによって2008年度は、ダンボール約11,200kgの使用量削減となりました。



通い箱

中食事業での取り組み

2003年よりワタミタクシヨクでは、ISO14001の認証取得、継続的な環境負荷低減に取り組む過程の中で、廃油を再利用するBDF(バイオディーゼル燃料)の使用なども開始しています。

2008年度は毎月配布の「食卓のひろば」にて、「マイ箸」推進のコラムを掲載、環境について考えるきっかけづくりを行いました。2009年度は、CO₂の削減、3Rの推進を中心に各工場、営業所にも順次取り組みを拡げます。

BDFの利用により軽油燃料12%削減

ワタミタクシヨク長崎工場では食品の製造過程で出た廃油を業者様に委託してBDF(バイオディーゼル)化を行っています。精製されたBDFはお弁当の配送車両の燃料として、軽油燃料と併せて利用しています。これにより、リサイクルだけでなく、軽油の発生抑制(リデュース)にもつながっています。

2008年度のBDF投入量は18千ℓでした。本来使用されるはずの軽油燃料の12%の削減につながっており、2009年度も同水準を目指し、取り組んでいます。



長崎工場で行っているBDF

有機農業の拡大による環境貢献

ワタミファームでは有機JAS規格に基づいた有機農業を行っています。活動は畑作事業だけでなく、乳製品加工、養鶏、畜産、有機肥料事業まで広がっています。食品残渣や畜産糞尿などの堆肥化などにより環境にやさしい循環型の農業を推進しています。

また、社員研修の受け入れや外部の方をお招きするワタミファームツアーの開催により有機農業の普及、啓発に取り組んでいます。

2010年4月には大分県臼杵市に新規農場の開設を予定しています。



2010年度開設予定の大分県臼杵農場

マイ箸の使用を推進

ワタミタクシヨクでは、2008年度より、宅配弁当につける割り箸を廃止し、マイ箸の利用を推進しています。

お客さま向けに発行している情報誌「食卓のひろば」に関連記事を掲載、宅配担当者「まごころさん」からお客さまへ環境への取り組みについて積極的に対話を促進、お客さまにご理解いただき、割り箸を廃止しました。



「食卓のひろば」のマイ箸ページ

環境コミュニケーション

ワタミでは、全従業員が環境に積極的に取り組む意義や、具体的な活動内容について理解し、環境に対する思いと知識の共有を行うため様々な研修を行っています。そして、これらの環境教育を通じて、従業員が自立した一人の人間として、環境について意識をし、行動できるようになって欲しいと考えています。

社内におけるコミュニケーション

W-ECO プロジェクトミーティングの開催

W-ECO ビジョン2013の環境活動を支えるためのプロジェクトから生まれた会議体です。各社各部署のW-ECOメンバーが月に2回集まり、ミーティングを開催しています。



会議の様子

活動の進捗確認だけでなく、テーマを持ち、議論、意見交換の場としています。

社員・パート研修の実施

ワタミでは、入社時研修をはじめ様々な研修において、環境教育を重要視し、研修プログラムに組み込んでいます。2008年度は、新入社員911人に対して、ワタミグループが環境問題に取り組む理由や活動内容(目標)を理解するための研修を実施しました。また、ワタミグループ本社では、パート・アルバイトの方々を対象に、定期的に説明会を実施しています。

内部環境監査員養成講座の開催

グループの環境活動の内部監査体制の強化と監査の質の向上を目指し、内部環境監査員養成講座を開催しています。講座ではISO14001規格の理解を深め、実際の内部監査の手法について学びます。

2009年3月現在ワタミグループ内に92人の内部環境監査員がおり、今後も充実を図るため継続的に行っていきます。

社外コミュニケーション

BPS(ビジネスパートナーシップ)

ワタミエコロジーではお取引のある廃棄物収集運搬業者様、メンテナンス業者様を対象に年に1回以上、情報交換の場を設け、ふれあい報告書の配布と説明をし、グループの環境活動をお伝えしています。2008年度は61社のお取引業者様が参加されました。

環境クレームの報告体制の確立

ISO14001認証取得をきっかけに外食店舗だけでなく、介護施設、ワタミ手づくり厨房においても環境に関するクレームが発生した場合に、事業本部を通じて、ISO事務局へ報告される体制を統一し整備しました。

2008年度は、残念ながら外食店舗で258件、介護施設で5件のクレーム発生が確認され、事例ごとに関連する部署が、原因の解明と是正措置を、すみやかに実行対応しました。

また、「ワタミ環境宣言2008」にて、ISO14001認証取得に関わる情報や廃棄物のリサイクルなど、自社の取り組み内容を積極的に情報公開する姿勢も表明しております。

さらに、環境意識の向上を目的とし、「ワタミの環境活動への取り組み」を外部の各種の団体や大学、企業などの要望に応じて紹介しています。

環境改善チェックシートの運用

外食店舗、介護施設、ワタミタクシヨク営業所では、「環境改善チェックシート」を活用し、全従業員で目標を共有し電気、水、廃棄物の削減などの継続的改善活動に役立てています。



店舗でのチェックシート

ECO検定(環境社会検定試験)講座の実施

東京商工会議所が主催するECO検定の受講者をサポートするため社内向けの講習会を開催しています。

2009年度は、7月に実施されたECO検定で4名の「エコビープル(ECO検定合格者の名称)」が誕生しました。

環境ビデオレターの視聴

ワタミグループの環境活動に対する考え方、グループ内で行われている取り組みを理解、共有するツールとして「環境ビデオレター」を年1回発行、ワタミで働く全従業員が視聴しています。

一人ひとりが、ワタミグループの環境活動に対し意識を維持し、高めるきっかけとしています。

■外部コミュニケーション

2008年4月	平成20年度食品資源循環形成推進事業製品認証制度運用基準生成部会 参加
2008年6月	第5回高校生環境サミット in TOKYO 出展 ワタミグループの環境活動についてパネル展示実施
2008年11月	大田区エコフェスタワンダーランドへの出展 有機おでんの配布、ワタミの森の木を使ったキーホルダーづくり、森づくり活動パネル展示
2008年10月~2009年1月	東京都環境局省エネ型営業スタイル推進協議会へ委員として参加
2009年2月	平成20年度全国省エネルギー優秀事例全国大会にて、エネルギーマネジメントシステム(電力使用の見える化)が資源エネルギー庁長官賞を受賞



資源エネルギー庁長官賞受賞時の写真

高校生環境サミットでの展示の様子

ワタミの森の木で作ったキーホルダー

グループ全社でオリジナル環境・社会貢献イベント「ブラックイルミネーション2009」キャンペーンを実施

2009年6月、ワタミでは、環境省がライトアップ施設の消灯を呼びかけている「ブラックイルミネーション2009」の主旨に賛同し、「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残してあげたい」というワタミ環境宣言をコンセプトに、グループ独自のキャンペーンを実施しました。



キャンペーンポスター

看板消灯の実施により42,016kg-CO₂を削減

国内では、6月21日20時~22時の時間帯において外食店舗582店・介護施設39棟・ワタミグループ本社の看板を消灯しました(一部、時間・消灯場所が異なります)。この取り組みにより、CO₂削減(42,016kg-CO₂)につながりました。

ご入居者様との環境イベントを開催

ワタミの介護のホームでは、ご入居者様とスタッフが「私のチャレンジ宣言」と題し、一人ひとりが意識して取り組むCO₂削減活動をカードに記入しました。6月21日には、ご入居者様にオリジナルドリンクを提供させていただくと同時に、環境イベントを開催させていただきました。



私のチャレンジ宣言

ワタミタクシヨクでのまごころさんやお客さまへの積極PR

ワタミタクシヨクでは、まごころさんを通じてお客さまに絵ハガキをお配りし、またお客さま向け定期刊行冊子「食卓のひろば」でも取り組みをお知らせしました。

国内外食部門でのカーボンオフセット付限定カクテル販売

国内外食店舗では、寄付を前提としたカーボンオフセット付限定カクテルを販売し、2,142千円をNPO法人「アクアブラネット」[Return to Forest Life]「スクール・エイド・ジャパン」に寄付させていただきました。

また、このキャンペーンでのカクテルは、業界に先駆けてカーボンオフセット付オリジナルカクテルとして販売を行い、ドリンク1杯につき、1kg-CO₂のカーボンオフセットの付与を行いました。今回オフセットに用いた排出権は、国連で認定されたアルゼンチンの風力発電によって創出されたもので、キャンペーンを通じて計31t-CO₂分のカーボンオフセットを実施しました。

海外においては、香港・深圳で独自の限定カクテルを販売し26,341円を環境団体に寄付をさせていただきました。



限定カクテルメニュー

カーボンオフセット証書

特集:NPO法人「Return to Forest Life」の支援

ワタミグループでは、「ワタミの森」づくりを行うNPO法人「Return to Forest Life」の活動を支援しています。この森づくりの目的は、現在荒廃している山林に適切な管理を施すことによって、少しずつ元の状態に戻し、たくさんの生き物たちを森に呼び戻すとともに、植物の光合成によるCO₂吸収効果を最大限に活用して、少しでも多くの温室効果ガスの吸収を促進していくことです。

この森づくりでは、大人から子どもまでたくさんの人たちに関わっていただくことが大前提です。また、参加した人たちが森づくりを楽しみながら、森を活性化させることの必要性を感じてもらえるような活動を計画しています。そして、ワタミの森の再生の輪を可能な限り広げていき、森を次世代の子どもたちに健全な形で引き継いでいけるように力を注いでいきます。

2008年度、森の活性化に向けて現在放置されている9haの人工林の間伐、下草刈り、ケヤキ植樹などを行いました。また、間伐材を使用し塗り箸を作成し、その有効活用方法についても検証を繰り返して行なっています。2009年度は、継続的な啓蒙活動を実施するとともに、間伐材の有効活用する取り組みを強化していく予定です。



間伐作業の様子



教育の様子



間伐材の整理



間伐材で出来た商品